

平成29年度 第3回 豊田市地域経営懇話会 会議録

【日 時】平成30年3月5日(月) 午前10時～午前11時30分

【場 所】豊田市役所南庁舎5階 南51会議室

【出席者】(委 員) 加藤 博道 (小原地域会議)
杉本 はるみ (豊田市ボランティア連絡協議会)
鈴木 富久 (豊田市区長会)
田端 稔 (豊田商工会議所) «副会長»
津村 美紀 (公募委員)
寺田 安孝 (あいち豊田農業協同組合)
長岡 美穂 (T I Aボランティア日本文化紹介グループ)
花村 善照 (豊田市高齢者クラブ連合会)
三崎 祐子 (豊田市ファミリー・サービス・クラブ)
湊 裕 (連合愛知 豊田地域協議会)
村野 政章 (公募委員)
村林 聖子 (愛知学泉大学現代マネジメント学部准教授)
山崎 丈夫 (元・愛知学泉大学教授) «会長»
山田 洋介 (豊田青年会議所)

(計14人)

【欠席者】(委 員) 磯 滋 (豊田市PTA連絡協議会)
胡桃沢 幸希 (学生によるまちづくりの会)
西原 香保里 (愛知みずほ大学短期大学部教授)

【事務局】 藤本 聡 (総務部副部長)
塚田 良 (総務部行政改革推進課 課長)
板倉 右京 (総務部行政改革推進課 主事)

【次第】 1 開会
2 会長挨拶
3 市長挨拶
4 議事
(1) 市長との意見交換
(2) 平成30年度「豊田市の予算」について【報告】
5 閉会

(文責は事務局。訂正することがあります。)

【会長挨拶】

- ・ 2つの議案がありますので、忌憚のない御意見をお願いします。

【市長挨拶】

- ・ 3月3日の土曜日に第67回の市制記念式典を開催しましたが、毎年数多くの方を表彰させていただいています。豊田市はスポーツで表彰させていただくことが多いのですが、今年はボランティア等の活動をしている人にも広げていこうと思っています。豊田市はそういう場面で活躍してくれている市民が多く、とてもありがたく思っています。本日も限られた時間ですが、よろしくをお願いします。

【議事（1）】市長との意見交換

○委員

- ・ 2020年に豊田市で開催される国際紙フォーラムについて、所管課はどこになりますか。

○市長

- ・ 小原和紙は650年の歴史を持っていて、日本の和紙の中でも独自の世界を築いているので、その良さを国内外にPRする機会として2020年に国際紙フォーラムを開催する方針です。所管課についてはまだ議論の途中であり確定的なことは申し上げられませんが、基本的には小原支所と和紙のふるさとだと思っています。

○委員

- ・ 定年後には今まで仕事をしていた1日8時間の時間が自由に使えることにはなりますが、現状多くの方々の余暇時間はボランティア活動や生涯学習活動には使われていません。豊田市職員の方々は日頃の職務の中でボランティアとの接点も多く、まちづくりのノウハウ、スキルをお持ちだと思いますので、是非ともボランティアに参加していただきたく思っています。

○市長

- ・ 職員の退職後の話は個人の話なので強制はできませんが、消防団等で活躍している職員を見たら必ず感謝の声を掛けるようにしています。退職後には20年、30年という第2の人生が控えている訳ですので、できるだけ生きがいを持って過ごしてもらえよう、なるべく退職相談会等で多くの選択肢を示し、自分なりの人生を選ぶことができるようなチャンスは提供できるようにしています。

○委員

- ・ こども園の遊具が長期間修理・回収されずに使用禁止になっている状況があります。ブランコ等は幼児の発達において教育的な意味を持つ大切な遊具ですので、市営のこども園においても施設整備を進めていただきますようお願いいたします。

○市長

- ・ こども園の遊具の数は豊田市内67園で1,000ヶ所程度あり、老朽更新、安全対策

も即時対応というわけにはいきませんが、スピード感が問われるところだと認識していますので、所管課と検討してみたいと思います。

○委員

- ・豊田市中央図書館が指定管理者制度に移行しもうすぐ1年が経とうとしています。司書の経験が浅く利用者からの質問に答えられない状況が出てきているようですが、その後の利用状況はいかがでしょうか。
- ・また、子どもたちには豊かなコミュニケーションの中で本を手渡ししてほしいと思っていますので、児童コーナーも自動化されたことは残念です。

○市長

- ・レファレンスについては、求められるレベルがどの程度か、という話もあります。今後もレベルアップに力を入れていきますので、引き続き御意見をいただきたいと思います。
- ・本の貸出の自動化の話は、良い、悪い、という意見が分かれるところだと思います。図書館に限らず、公共サービスの自動化・機械化に伴って市民の皆さんとの接点がどうあるべきか、なお市民サービスの向上を図るためにどう工夫をするかということは問われていくと思いますので、引き続き検討をしていきます。

○委員

- ・現在、持家を持ちやすい環境になったことにより、分譲住宅化が進み、私の地域にも若い世代の人が多く入ってきましたが、分譲住宅の宅地が小さく、隣接する住宅間で子どもによるトラブルが出始めました。市の市民相談窓口を増やしていただきますようお願いいたします。

○市長

- ・市の市民相談課が法律相談を実施していますが、非常に多くの方に利用していただいている状況です。相談の日程調整等に現在ご不便をおかけしているかもしれませんが、御了承いただけたらと思います。

○委員

- ・空き地がどんどん開発され、子供たちが集まり遊べる場所が減っています。市の公園基準を見直し、ちびっこ広場の開発等、柔軟な対応をお願いいたします。

○市長

- ・広場については地域からの要望も多いのですが、全市的なバランスや緊急度、必要性を見ながら計画を立てて実施しています。これからもお話を聞きながら進めていきたいと思っています。

○委員

- ・少子高齢化の影響か、お年寄り2人暮らしの世帯が増えてきており、最近私の地区でも空家を目にするようになりました。農山村地域だけでなく、住宅地内についても空家対策をお願いいたします。

○市長

- ・山間地の空家対策は、スムーズに入居が決まるわけではないので過疎対策も含めて市でも喫緊の課題になっています。一方で都市部の空家については、その多くが市場の中で取引されることが多く、今のところは大きな問題にはなっていないようです。問題はこれから発生してくる高齢者世代、単身者世代の後の空家だと考えていますので、関係者や専門家に集まってもらって、対策協議会を設置して検討をしていきたいと思えます。

○委員

- ・現在65歳で現役を終えた人も地域のボランティア活動で頑張っている人がいらっしゃいます。65歳以上を高齢者（＝お年寄り）とする定義は現実とは合っていないので、見直すべきだと思います。

○市長

- ・現在の高齢者の定義は1950年代のものを引きずっており、そろそろ定義を見直すべきという御提案には私も賛成しています。ただ、この話が出ると必ず年金や社会保障等、国の制度との整合性が問題となってきます。

私はこの定義の見直しは地域社会の高齢者のあり方を考える中で、地域の中でやってもいいのではないかと考えています。市内で一律でなくとも、それぞれの地域の中で議論をされて、基準を決めることもできると思います。

○委員

- ・昨今「働き方改革」について多方面で聞くようになりましたが、学校においてはなかなか難しい現状であるように感じています。先生方の働き方改革を行った結果、仕事の効率化や職場風土が変わっただけでなく、教育の質の向上につながった事例も多々耳にします。学校、地域、保護者だけでなく、行政も一緒に進めていくことが重要かと思えますので、好循環を作り出す体制づくりをお願いします。

○市長

- ・教員の働き方改革について、豊田市では今年度「多忙化解消プラン」を作成し、3月に公表しています。このプランに基づいて当面取り組んでいこうということで教育現場では気持ちを一つにしておりますので、その状況を見ていこうと考えています。

ただ、教員の多忙化の話が学校現場だけで解決することは難しいと思います。豊田市ではコミュニティスクールを進める中で、PTAに地域（C）を加えてPTCAという取組をしており、親と教師だけでなく地域も巻き込んで学校を変えていこうということをやっています。親としてだけでなく、自分たちの地域の学校だと考えてくれる大人たちが一緒になって学校のことを考えることで、教員の多忙化は解消されていくと思えますし、たとえ多忙であっても更に満足感は得られると思います。

○委員

- ・今後、高齢者クラブが地域の高齢者の活動の中心を担うためには、市役所の各課、高齢者クラブ、自治区等がさらに連携する必要があると思えます。しかし、市役所の関係課

は多岐に渡るため、現在でも連携がうまくいっていないように感じています。縦割ではなく、ラグビーワールドカップ 2019 推進課のように、地域の高齢者の活動に特化した部署を作るのはどうでしょうか。

○市長

・縦割がしっかりしていないと横割にはできないと考えています。私はよく家で例えるのですが、柱がきちんと立っていないのに屋根はかけられません。第 8 次総合計画の最重要項目に超高齢社会への適応を謳っていますので、そのために市内の情報交換会を行ったり、高齢者保健福祉計画や介護保険事業計画等の策定の際には必ず市内横断的な組織を立ち上げるなどして、連携を取っています。

また、この 4 月からヤングオールドサポートセンターを市民活動センターの中に吸収しています。今までは年齢や世代で区切っていましたが、街・地域を良くしたいという共通の目的は変わらないと思いますので、「市民活動」というキーワードによって世代間や地域間の交流がしやすい環境を作っていきたいと思います。

○委員

・2 月 1 日に豊田市女性しごとテラス「Cappuccino」がオープンし、女性の「はたらく」を応援する窓口ができたことは大変嬉しく思います。一方で、シニアの方々の活躍の場や就労支援はどのように進んでいるのでしょうか。また、ヤングオールドサポートセンターや高年大学卒業後の様子なども教えてください。

○市長

・シルバー人材センターにおいても年金受給年齢の引上や定年延長などにより、会員数は微減しています。シルバー人材センターの本来の目的である「高齢者の生きがい就労」を外すことなく、働き方のニーズに合わせた就労メニューの開拓など、シルバー人材センター自体の工夫・改革も必要だと考えています。

ヤングオールドサポートセンターと市民活動センターの統合により、高年大学卒業後は市民活動センターへ登録しやすくなると思っています。高年大学で得た仲間やノウハウ、生きがいを、市民活動センターを通じて次の活動へ繋げていくことを期待しています。

○委員

・昨年実施された愛知県による子供の貧困調査の結果を受けて、県としては来年度の予算に対策費を計上し、対応に乗り出すそうです。豊田市における子供の貧困について、現状の認識と、今後どのような対応をお考えなのかについて教えてください。

○市長

・愛知県の調査によると、豊田市の貧困率は 5.4%、愛知県の平均が 5.9%だそうです。単純に計算をしますと、豊田市内に 4,000 人弱の対象者がいることになっています。豊田市の場合、貧困家庭の学習支援を街中と高橋地区の 2 か所で行っており、33 名程度が参加しています。貧困支援は地域の課題でもあるため、各種 NPO 等と連携して進めたいと考えています。

ただ、誰が貧困家庭なのかというのが明らかになるような支援の仕方ではなく、例えば孤食対策と結びつけて対象者を広げるなど、誰もが支援を受けやすい仕組みにしていきたいと思います。

○委員

- ・豊田市における生活保護率について、市長就任前後の増減はどのような状況でしょうか。また、生活保護費の支給状況や今後の課題と対策について教えてください。

○市長

- ・豊田市の生活保護率は、平成 23 年度末は 0.59%、平成 28 年度末は 0.58%と微減です。
- ・生活保護費の支給状況は、平成 28 年度末において 1,758 世帯 2,439 人で、平成 28 年度の生活保護扶助費の決算額は 3,818,663 千円でした。
- ・生活保護に対する課題と対策についてですが、今後高齢者世代が増えるに従い医療扶助費も増加していきますので、先が長い話ですが、40~50 代の生活習慣病対策が重要になってくると思っています。また、就労については庁舎内にハローワークを設置し、生活相談と合わせて就労相談も同じ窓口でできるような体制をとっています。

○委員

- ・最近 8 0 5 0 問題をよく耳にしますが、豊田市における状況を教えてください。

○市長

- ・8050 問題については、豊田市でも相談がありますが、そこに至るまでの状況は複雑で、簡単に解決に至るケースは多くありません。また、そういう家庭は地域から孤立をしていることも多く課題の発見が難しいこともあります。
昨年高岡支所に福祉と健康の総合相談窓口を設けて、地域から孤立している方の課題を民生委員さん等と連携しながら解決をしていこうという取組をやっているところです。新年度からは猿投地区にも相談窓口を開設する予定ですので、当面その状況を見ながら検討を進めていきたいと思っています。

○委員

- ・平成 2 9 年 3 月 2 2 日に市議会を経て「WE LOVE とよた条例」が成立され、その後 1 年様々な取組が行われてきましたが、条例にすることによってこそ可能になったことは何であったのでしょうか。

○市長

- ・WE LOVE とよた条例は昨年度の条例制定に向けた検討委員会でも、そもそも条例が必要なのかという議論がある中で制定させていただきました。
2 月 25 日にスカイホール豊田で開催された WE LOVE とよたフェスタは、スカイホールを 1 日貸し切る、予算はない、やりたい人がやりたいことをやる、ということだけを決めて進めましたが、2 か月半の間に 130 以上の団体が集まり、当日は 6,000 人もの方が来場してくれました。3 月 4 日には豊田市民の誓い制定 40 周年を記念するイベントがあり、そこにも多くの方が訪れてくれましたが、そのオープニングに来ていた人のうち、WE

LOVE とよたフェスタに参加した人は3名でした。

- ・2つのイベントの豊田市を愛するという根っこは同じですので、市民から見ると理詰め
の豊田市民の誓いと、雰囲気共感する WE LOVE とよた条例という2つの入り口が用意
できたということだと私は思っています。
- ・また、市民に分かりにくい第8次豊田市総合計画に対し、一つ共感できるバックボーン
として WE LOVE とよた条例があるとも思っています。市民の皆さんに WE LOVE とよ
たを共感してもらうという取組は非常にふわつとしています。今年1年やってみてイ
ベント等を見ていると、やはり条例化して良かったと思っています。

○委員

- ・各部署で合理化・効率化が進められていると思いますが、各部署の判断だけの合理化・
効率化は市民サービスの大切なところを切り落とす危険性があります。市役所内の横の
連携についてはどのように取り組んでいるのでしょうか。

○市長

- ・前述もしましたが、他にも部長会議や経営戦略会議等を実施して横の連携を図っていま
すので、それでも何かお気づきの点があれば教えていただけたらと思います。

○委員

- ・私たちの団体も貧困世帯について何かしらお手伝いできたらと思っています。貧困世
帯の状況について、もう少し詳しく調べていただくことはできませんか。

○市長

- ・一般的な調査をかけても現状は出てこないと思っています。学校、地域が掴んでいる情
報、隠れてしまう情報もあり、現状の把握は簡単ではないと思いますので、時間をかけ
て地域及び行政で並行して進めていきたいと思っていますので、お力添えをお願いします。

○委員

- ・図書館については、自動化によって、今まで4階で全ての手続が済んでいたことが、自
動貸出機がある上の階や下の階に行かないと手続が進まない不便な状況が起きています。
いずれ利用者はなれると思いますが、指定管理施設にはそれぞれ特性があると思いま
すので、同じ指定管理施設ということで画一化するのではなく、特性を見過ごさずに進め
ていただきたいと思っています。

○市長

- ・上の階や下の階に行かないといけないという話は初めて聞きましたので、また所管課に
も確認します。
- ・機械化や自動化により各階でレファレンスができる等、柔軟な対応ができるようになって
いるとも聞いていますので、引き続きサービスの質の向上を図っていきます。

【議事(2)】平成30年度「豊田市の予算」について【報告】

○委員

- ・平成 30 年度の歳入について、固定資産税が減るのはなぜですか。

○説明者

- ・固定資産税は 3 年に 1 度課税標準額の見直しのタイミングがあり、平成 30 年度はそのタイミングであったためです。
- ・また、豊田時の財政状況を測る数値が高くなりすぎたことにより、県に一部が課税される、という特殊な状況があったことも理由として挙げられます。

○委員

- ・企業の損益計算書や貸借対照表のような資料を作っただけだと、市民にも内容が分かりやすいかと思います。

○会長

- ・それでは、本年度第 3 回地域経営懇話会の議事は、これにて終了といたします。